

天敵誘引植物を用いたイチゴのアブラムシ生物的防除体系の確立

1 中核機関・研究総括者

埼玉県農林総合研究センター 根本 久

2 研究期間

2006～2008 年度（3 年間）

3 研究目的

近年、消費者等からの安全・安心な野菜供給の求めに応じて、積極的な減農薬栽培が進められている。しかし、冬期から春期にかけて収穫するイチゴ栽培では栽培温度が低く、土着及び天敵農薬の活動が緩慢で、減農薬防除を進める上での課題となっている。中でも、アブラムシの収穫期の防除は省くことができず、殺虫剤に代わる代替技術が求められている。さらに、収穫期のアブラムシ対策はハダニ防除のための天敵農薬利用上の障害になっている。このため、ポリジ（天敵誘引植物）を用いてアブラムシの土着天敵を誘引し、これを効率よく定着させ、イチゴ減農薬栽培で問題となるアブラムシの抑制技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 天敵誘引植物（ポリジ）利用技術の開発（（独）野菜茶業研究所、埼玉県農林総合研究センター、（株）共立リビングアーツ）
ポリジとイチゴにおけるアブラムシ類と土着天敵寄生蜂の発生活長と種構成を調査し、定植時期や配置法を決定する。ポリジの天敵誘引植物としての役割を評価し、その利用手法を確立する。
- ② 誘引因子の解析（筑波大学、埼玉県農林総合研究センター）
ポリジのアブラムシ類の天敵アブラバチ類に対する誘引性の生物検定法を確立し、その化学成分の検討を行う。
- ③ 個別防除技術の開発（埼玉県農林総合研究センター、茨城大学）
イチゴ栽培における、ポリジを組み入れた場合のハダニ発生防止効果、体内硝酸態窒素濃度とうどんこ病やアブラムシ発生との相関、微生物農薬及び天敵農薬の効果等を調査し、I P M体系を確立する。
- ④ 天敵誘引植物を用いた防除体系の確立（埼玉県農林総合研究センター）
天敵に対する薬剤の影響を最小限にした、薬剤と土着天敵及び天敵農薬を組み合わせて、個別技術を体系化する。

5 目標とする成果

ポリジ（天敵誘引植物）の利用技術に加え、既存の個別技術である天敵農薬や肥培管理による病虫害抑制技術等を組み込んだ総合的害虫管理技術（I P M）を確立する。これにより、土着及び天敵農薬の活動を促進し収穫期間中のアブラムシに対する薬剤防除を回避し、合成殺虫剤の使用を通常の1/3以下に押さえたイチゴ栽培の実現が期待される。

天敵誘引植物を用いたイチゴのアブラムシ生物的防除体系の確立

研究内容

